

もりの夜も打きてたにたさう紙に沙羅持久有におむいの
玉の珠をくり返り一匹の毛をもとまき法華經の普門品を讀
誦して入道庵も後にもに後生善生と公稱くまゐらうし
て辞世にかゝるなり

一節は大意大恩のかけねむの月のいうてもらん

第七番 おくちの前とて十六歳是に尾張玉武夜長
門守娘あり實に日次花にたむれ月をむておむひて
くまらくに昨暮して後世のいとあまふおむひとよ
らてつづる名のはねののをも俄あまき貞女上人
れ教化をうけしをあらうしとかはなり

さきだちし人をあらふにゆく道のまゝむを照せ山のその月
第八番 おくちの前とて十六歳是に尾張玉武夜長
門守娘あり實に日次花にたむれ月をむておむひとよ
らてつづる名のはねののをも俄あまき貞女上人
れ教化をうけしをあらうしとかはなり

第九番 おくちの前とて十六歳是に尾張玉武夜長
門守娘あり實に日次花にたむれ月をむておむひとよ
らてつづる名のはねののをも俄あまき貞女上人
れ教化をうけしをあらうしとかはなり